

大野町商店街の活性化の方策は？

—— 黒埼まちおこしフォーラム ——



12月15日(土)、黒埼町公民館講堂(役場分館2階)で「黒埼まちおこしフォーラム」(主催・黒埼町商工会、協賛・黒埼町)が開催されました。県の一大観光拠点「新潟ふるさと村」が本町の山田に来年7月オープン、また大型ショッピングセンターの計画もあるなど、大野町商店街も大きな岐路に立たされています。そこで、流通・経済問題に造詣の深いかたがたをゲストに招き、商工業を中心に町おこしをどのようにやっていくべきか考える機会として開かれたものです。

〈出席者〉

- パネラー 川瀬孝二氏／流通構造研究所代表
- 橋田 忠明氏／日本経済新聞社流通経済部長
- 田村 豊美氏／中小企業診断士
- 浅妻茂一郎氏／黒埼町町長
- 総合司会 牧 作樹氏／日本経済新聞社新潟支局長



川瀬 昔は品物がいいか悪いかが消費者が物を買う基準だった。現在はその店が好きか嫌いか、さらに気持ちがいいかどうかが決める手。近い将来は感動があったかないかに変わっていくだろう。

仮称・黒埼特産館の愛称が決まりました

来年七月、山田に「新潟ふるさと村」がオープンする予定ですが、それに合わせて黒埼町を全国にアピールし、特産品を直売する(仮称)黒埼特産館が建設されます。その愛称が募集されましたが、このほど愛称が決まりましたので、お知らせします。

「Be-in くるさき」です。この愛称募集には、二十四人から三十一名の応募があり、この中から、青木亨さん(白根市)堀和夫さん(鳥原本村)白井正美さん(小平方)の作品をもとに、町商工会の黒埼町特産館C-1委員会が、決定しました。Beは「存在する」「生じる」inは「到着して」

「入口」を表現しています。新潟の表玄関、さらに新潟の観光拠点として全国に「黒埼町」をアピールするものとして、このような名称になったということです。



大胆に、町ぐるみでやるのでなければ、大野町の活性化はムリ

大野は大きく区画整理・再開発に取り組みれば、大野町の活性化はムリ 川瀬

まず、現在の商業の全体的な動向について。川瀬 昔は品物がいいか悪いかが消費者が物を買う基準だった。現在はその店が好きか嫌いか、さらに気持ちがいいかどうかが決める手。近い将来は感動があったかないかに変わっていくだろう。

も。黒埼の働く女性の六割が新潟市内に働きに出ているため、最寄りの店が黒埼でなく市内になっている。黒埼は町自体がヘソのない町。どこの町の中心かよくわからない。司会 ところで、商店街活性化の阻害要因にはどのようなことが考えられるでしょうか。橋田 九〇年代は、高度経済成長期のスーパーチェーン誕生の時と比べようのない流通大変革の時代になる。新潟市にアメリカの玩具チェーン『トイザラス』進出の話があり、これまで地域の話で済んだものが日米の大きな問題になる時代になった。商店街活

動を阻害しているものとして①地価高騰。②駐車場不足。③商店街運営組織の問題(内部の意見の食い違いなど)。④後継者不足。⑤地域住民の好みの変化。⑥競争が厳しいための歯抜け(店をたたみ、その跡が駐車場や空地になること)現象。司会 県内の商店街の活性化の現況は。田村 県が商店街組織八十二組合を対象に行った調査で、繁栄している理由として①近代化事業の実

施。たとえば、加茂市の駅前では土地区画整理事業と近代化事業を合併して実施。②大型店が核店舗として進出してきた。③集団移転。④共同駐車場を整備。衰退しているところを返す。⑤郊外に出た大型・中型店の進出。⑥環境整備の遅れ。特に駐車場。⑦商圏の縮小、市外への流出。強い商圏に隣接している所に多い。⑧各店が老朽化。⑨他商圏との競合。商店街従業員の年齢も全国より若い。閉店時間が八時というのは全国で四六・二%だが、県内ではそこまですべて、むしろ伸ばす傾向に。後継者も七割にいないが、お嫁さんがいないということが問題。



田村 県が商店街組織八十二組合を対象に行った調査で、繁栄している理由として①近代化事業の実

さびれてきたが、歯止めとなる意識改革ができなかったことを反省。県の観光物産センター(新潟ふるさと村)が町にということに懸念に反対し、特産館で地域活性化のビジネスチャンスを与えてくれるよう県にお願いした。これを一つの核として、努力してきた意欲に模範として生かしていただきたい。そして、大野に大胆な活性化事業を起すことはどうかと思っている。大野町に昔から暮らしてこられた人たちが、大きく区画整理、再開発というものを取り入れてはどうかかなあと思う。やろうと思えばできる。特産館を核にしながら、再開発か、別な所に求めるか、ピンチをチャンスに。

と大野は大きな試練に。大野のような町でゴーストタウン化した町が全国にも多くある。大野の地価は坪三十万円だが、住宅地の地価も坪三十万円、大野の土地は付加価値〇。如実に衰退していることを示している。よほど大胆な、町ぐるみでやるのでなければ活性化はムリ。提案の一つは、中之口川を生かすこと。素晴らしい川だと思ふ。対岸から大野の川べりを見たが、地元の最大の財産と感じた。あれをどう生かすかがキーになる。町のコミュニティセンターとしての機能を果たした施設が必要。また、川があってポットが浮べた、アスレチッククラブのようなものを作っては、ポットの免許の世話、貸し船、釣り、土手にサイクリングコース。

二番目の提案として、全国に情報を発信する町にするということ。ふるさと村ができ、観光客を大野に集める手がある。船つき場に茶屋があり、屋形船や船上レストラン。またガンギのある商店街の再



田村 県が商店街組織八十二組合を対象に行った調査で、繁栄している理由として①近代化事業の実

増えてきた(例・大阪の西成区や栃木県二の宮町など)。新潟市に流出する客を呼び戻すのに、カードあるいはスタンプ商法をお勧めしたい。消費者調査で、大型・専門店を入れてほしいというのだから、怖がらずに意欲のある店を誘

田村 ①意識の近代化。哲学を持つということ。②株式会社大野町らしいの発想で、組織のしくみをしっかり作ることが肝要。③再開発。近代化事業をやるなら、上の方を居住できるようにし、学生・単身赴任者に住んでいただく。司会 黒埼のまちおこしのポイント。川瀬 地域の心が住みついている町は消えないのでは。地域の皆さんの心が触れ合える

商人は地域の人々に豊かさにについての刺激を与え続けてほしい 橋田
まちおこしの根底は人づくりに。黒埼を黒埼らしくする人物を 田村

浅妻 最初は皆さんの話、厳しく感じたが、最後にはやればできると力強く感じた。